

公立大学法人岡山県立大学

令和3年度に係る業務の実績に関する評価結果

令和4年7月

岡山県地方独立行政法人評価委員会

## 目 次

1	評価対象法人の概要	1
2	評価の実施根拠法	1
3	評価の対象	1
4	評価の趣旨及び評価者	2
5	評価方法の概要	
	(1) 評価基準	2
	(2) 評価の手法	2
6	評価結果	
	(1) 総合的な評定	3
	(2) 中期計画の各項目の評定	4
	第2 大学の教育研究等の質の向上	4
	第3 業務運営の改善及び効率化等	5
	(3) 評価結果等の業務運営への活用状況	5
	(4) 公立大学法人岡山県立大学に対する勧告等	5

## 1 評価対象法人の概要

- (1) 法人名等 総社市窪木111番地 公立大学法人岡山県立大学 理事長 沖 陽子
- (2) 設立年月日 平成19年4月1日
- (3) 設立団体 岡山県
- (4) 資本金の額 12,091,632,943円
- (5) 中期目標の期間 令和元年度から令和6年度まで
- (6) 目的及び業務

### ア 目的

公立大学法人岡山県立大学は、人間を取り囲む様々な環境の中で調和のとれた発展を期し、地域の課題や社会の要請に的確に応えるため、「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し、地域に貢献する」ことを基本理念とする。

この理念に基づいて、学術の進展と教育の振興を図り、福祉の増進、文化の向上、地域産業の発展等に寄与する研究活動に取り組むとともに、知性と感性を育み、豊かな教養と深い専門性を備えて新しい時代を切り拓く知識と高度な技術を身につけた実践力のある人材を育成する。

### イ 業務

(ア)岡山県立大学を設置し、これを運営すること。

(イ)すべての学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談など学生生活に関する相談その他の援助を行うこと。

(ウ)民間企業や試験研究機関等との間の共同研究や受託研究、技術指導等を実施するなど、企業等と連携して教育研究活動の推進に取り組むこと。

(エ)地域社会に貢献するため、公開講座を開設する等、地域住民に幅広く学習機会を提供するとともに、大学における研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。

(オ)前各号に掲げる業務を効果的かつ効率的に実施するため、附帯して必要となる関連業務を行うこと。

## 2 評価の実施根拠法

地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第78条の2

## 3 評価の対象

令和3年度における公立大学法人岡山県立大学の中期計画（令和元年度から6年度まで）の進捗状況

#### 4 評価の趣旨及び評価者

##### (1) 評価の趣旨

地方独立行政法人法の規定に基づき、公立大学法人岡山県立大学（以下「県立大学」という。）が、十分な向上心のもと他の大学の模範となるような業務運営が行えるよう、業務の質の向上、業務運営の効率化、透明性の確保等について自主的、継続的な見直し及び改善を促すことを目的に、岡山県地方独立行政法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が業務の実績評価を行う。

##### (2) 評価委員会（委員名順、50音順）

委員名	氏名	役職等
委員長	萩原邦章	萩原工業（株）取締役会長
委員	小田項一	税理士・公認会計士
委員	清水祐子	岡山県商工会議所女性会連合会副会長 （株）三松 専務取締役
専門委員 （大学関係）	秋山祐治	川崎医療短期大学学長 川崎医療福祉大学副学長
専門委員 （大学関係）	桑原和美	就実大学・就実短期大学学長

#### 5 評価方法の概要

##### (1) 評価基準

公立大学法人岡山県立大学の業務の実績に関する評価の実施基準

##### (2) 評価の手法

公立大学法人岡山県立大学の自己評価の結果を活用する間接評価方式

## 6 評価結果

### (1) 総合的な評定

評価委員会は、県立大学が「公立大学法人岡山県立大学の業務の実績に関する評価の実施基準」により自己評価し提出した「令和3年度に係る業務の実績に関する報告書」の評価を行い、次のとおり評定した。

県立大学は、人間を取り囲む様々な環境の中で調和のとれた発展を期し、地域の課題や社会の要請に的確に応えるため、「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し、地域に貢献する」ことを基本理念とし、学術の進展と教育の振興を図り、福祉の増進、文化の向上、地域産業の発展等に寄与する研究活動に取り組むとともに、知性と感性を育み、豊かな教養と深い専門性を備えて新しい時代を切り拓く知識と高度な技術を身につけた実践力のある人材を育成することとしている。

令和3年度は、第3期中期計画の3年目として、3つの基本方針（①社会を牽引する専門性、グローバルセンス及び人間力を有する、きらりと輝く地域リーダーを育成する ②来るべき高度知識基盤社会に貢献できるよう、基礎生産力のある学術研究を強化する ③社会のニーズにしなやかに適応するため、教育研究組織を見直し、スリムな大学運営システムを構築する）について、教職員が共有して年度計画の推進に取り組み、確実に前進している様子が見られた。

大学として最も重要な業務の一つである人材の育成に関しては、その指標となる保健福祉学部の国家試験の合格率について、看護師、助産師、及び管理栄養士は100%を達成し、社会福祉士は目標をやや下回ったものの、令和2年度に比べ上昇しており、着実に成果を上げている。

学生の生活支援に関しては、コロナ禍におけるメンタルサポートとして、教職員の意識向上を図る研修の実施や学生対応マニュアルの作成等により、学生を適切に支援する体制づくりが進められたほか、障がいを持つ学生に対しては、合理的配慮を行い、配慮の情報を教員間で共有する仕組みを整備するなど、積極的に取り組んでいる。

業務運営の改善に関しては、入試システムの欠陥による得点集計の誤りに対し、発覚後直ちにワーキンググループを設置して原因究明と検証を行い、マニュアルの見直しやチェックリストの作成など、再発防止策を講じている。

最小項目別評価の結果は、全52項目中、4点が12項目、3点が34項目、2点が6項目、1点が0項目と、評点平均値は3.1となっている。大項目別評価では、「第2 大学の教育研究等の質の向上」は最小項目33項目の平均3.2点で「進捗は優れて順調」、「第3 業務運営の改善及び効率化等」は19項目の平均3.0点で「進捗は順調」に当てはまる。

以上のことから、令和3年度は、企業等との共同研究や入学者選抜方法など成果指標が未達成の項目はあるものの、コロナ禍での経験を生かし、オンラインと対面の両立を図るなどの教育方法の改善を進めたほか、副専攻「吉備の杜」による地域連携教育の推進など、第3期中期目標の実現に向けた積極的な姿勢が見られることから、最小項目別評価及び大項目別評価の結果も踏まえ、業務の実績における中期計画の進捗は順調と評定する。

最後に、18歳人口の減少や東京一極集中など大学経営を取り巻く環境は以前にも増して厳しく、新型コロナウイルス感染症の影響が長引く中であっても、目標実現のため創意工夫しながら、引き続き、機動的・戦略的な大学運営に一層取り組まれることを評価委員会としては期待するものである。

## (2) 中期計画の各項目の評定

### 第2 大学の教育研究等の質の向上

#### ア 評定

中期計画の進捗状況は優れて順調

#### イ 理由

中期計画の達成に向け、年度計画に掲げた取組の多くが着実に実施され、当該中期計画期間に取り組むべきことが進捗していると思受けられる。

#### ウ 評価した項目

① 項目数 33項目

② 特筆すべき項目

##### 【教育】

- ・保健福祉学部目標である国家試験合格率について、看護師及び助産師に続き、管理栄養士でも100%を達成したほか、社会福祉士に関しては講座を新設し、76.3%に向上させるなど、指導の充実と内容の改善を進め、高い合格率を実現した。
- ・長期インターンシップの実施について、コロナ禍の影響を受けながらも、受入企業との調整や教育内容の充実を努め、参加者数は58名と大幅に向上した。

##### 【学生の確保】

- ・入学者選抜の実施・改善について、入試システム上の重大な欠陥を、外部からの指摘で判明するまで見逃しており、結果的に合格者の変更はなかったものの、入試ミスの防止体制が不十分であった。

##### 【学生の支援】

- ・就職支援の充実について、キャリア・学生生活支援センター及び地域創造戦略センターを中心に、コロナ禍での就職、キャリア形成に向けた情報提供の充実を図るとともに、オンラインや電話による就職相談等の支援を実施したことにより、県内就職率は今年最高の53.9%を達成した。

##### 【研究】

- ・公募型研究助成事業及び科学研究費補助金について、公募情報の周知や申請計画書の作成に係る勉強会等を実施し、申請数は増加したが、事業採択数及び補助金採択率は、ともに低調となった。
- ・地域の企業・団体との共同研究費等について、コロナ禍の影響により、獲得件数・金額ともに目標を大きく下回った。

##### 【地域貢献】

- ・地域連携教育の充実について、副専攻「岡山創生学課程」による地域創生推進士の認定は34名に上り、地域創生推進士の71.4%が県内に就職していることから、全体の県内就職率を押し上げた。

### 【グローバル化】

- ・英語教育について、より習熟度の高い学生を対象とした「Advanced class」の開設やオリジナル教材の改訂等により、TOEIC平均点の1年次から2年次の伸び幅が49.33点、また、550点以上取得した学生の同伸び幅が68.24点と、英語力の顕著な伸長が認められた。

## 第3 業務運営の改善及び効率化等

### ア 評価

#### 中期計画の進捗状況は順調

### イ 理由

第3期中期計画に掲げる3つの基本方針を着実に実施するため、課題解決に取り組む姿勢が見受けられる。

### ウ 評価した項目

① 項目数 19項目

② 特筆すべき項目

- ・ICTを活用した情報伝達や情報共有について、学内ネットワークの更新が完了せず、情報発信・共有ルールの見直しを実施できなかった。
- ・ユニバーシティ・アイデンティティ（UI）戦略の推進について、学生や地元企業との協働により、キャンパスソング及びクッキーが完成し、今後の展開が期待できる。

## (3) 評価結果等の業務運営への活用状況

- ・当評価委員会の評価結果を学内の部局長会議、教育研究審議会、経営審議会、役員会に報告し意見を聴くとともに、学内教職員で情報共有を図り、次年度の年度計画及び自己評価、予算、組織の見直しに活用した。

## (4) 公立大学法人岡山県立大学に対する勧告等

該当なし